編集後記

ここ一、二年の、社会は大きな変貌を遂げたように思われる。戦後すぐ、いや戦争末期から始まり、半世紀近く続いてきた米ソ冷戦体制が、ソ連邦の事実上の解体というかたちで閉幕を迎えた。そして今、世界は新しい秩序を求めてさまざまな様相を示している。ユーゴの内乱も、この度の中東和平会議もその一端であろう。

もちろん、このような大きな世界のうねりの中で、日本もまた、その国内外を問わず、重大な選択を迫られてきている。新しい秩序形成がなされるまでのこの時期、日本の選択は、今後の日本はいうに及ばず、世界の将来にとっても大きな意味を持つであろう。宮沢新政権の誕生も、選択肢不足の中での自民党が示した「危機感」なのかも知れない。

しかし、この「新しい秩序形成」がいかなるものであるべきか。現在、歴史学は、この問いに対して何の答えも用意できていないのではなかろうか。既存の歴史学の再検討、事実・事象からの再検証が求められるのは、ここにある。

昨年は、本会結成の端緒、自由民権百年神奈川大会が挙行されて十年目であった。この間、本会が追求してきたことは、あらためて史料から地域の歴史を捉えなおしていこうとするものであった。そして今回の諸論稿もまた、それぞれ既存の歴史学の評価を、事実に基づいて再検討するものであり、これは各筆者の業績であると共に本会の成果そのものでもある。本会の活動を問い直す意味でも大方の叱正を乞う次第である。

（文責　植山　淳）

京浜歴科研年報　第六号

発行日　一九九二年一月二六日
編集・発行
京浜歴史科学研究会
〒233 横浜市港南区港南台二―一―九―四〇七
奥田晴樹方 ℡〇四五―八三一―五二七七
（郵便振替口座　横浜七―一五五三五）
印刷　合資会社　横浜大気堂
横浜市中区真砂町四―四〇